

特別決議

憲法・教育基本法を今こそ輝かせ、 真理・理想・ロマン溢れる学校に

私たちは希求します。

平和な地球、戦争しない日本を。

個々人が尊重され、自由と人権が保障される社会を。

これらは皆、日本国憲法が指し示す社会です。今、その憲法が攻撃にさらされています。歴史を逆戻りさせようとする勢力と、その土俵にのせられ、それへの迎合を競い合う勢力とによって、日本国憲法こそ人類史の先端を行く宝としてとられ、それを誇りとする私たちは、何としてもこの闘いに勝利しなければなりません。まずは彼らが狙う国民投票法案を、提案できない状況に作り上げましょう。現代日本の知性を代表する9人によって投げかけられた「九条の会」の波紋が、全国をおおい尽くす大きなうねりとなるよう、職場で地域で工夫を重ね地道な一歩を踏み出しましょう。

私たちは望みます。

憲法の理想が、津々浦々で実現する日本を。

それを教育の力に待つべきものとした「教育基本法」が真に力を発揮できる世の中を。

平和、真理、正義を愛する国民の育成を可能とする教育を。

過去の過ちを過ちとして、真摯に受け止める心の健康を、国民がもって初めて近隣アジア諸国との信頼関係は築かれます。「つくる会」の教科書は最大の反面教師です。「消えた監修者」・高橋史朗氏を教育委員に抱える埼玉の闘いを全国が注視しています。3・26集会に示した力を梃子に、彼らを必ずや追いつめましょう。父、母、祖父母の世代の「過ち」、そして悲しみを、決して子や孫の世代に再び体験させるような結果とさせないために。

私たちは考えます。

学校とは、心の丈だけ理想が語られ、そしてそれが追求されるべきところだと。

真理を心に刻む生徒たちがいて、そんな生徒と未来を語りあう教師がいる場であると。

しかし、教育環境の劣悪化、多忙化の中で、生徒も教師も日々喘いでいるのが実態です。それでもまだ学校たるうという努力が続けられています。そこには人間的な信頼を拠り所とした協力関係が、まだ教師の中で失われてはいないからです。

今ここに、くさびが打ち込まれようとしています。人事評価という名の第一の「勤評」のくさびが。無理やりの教員序列化と、その処遇への反映が目論まれています。私たちが求めるものは、「足の引つ張り合い」の排他的競争原理ではなく、「助け合う」協力体制です。職員会議や主幹問題での管理規則改定の時、「学校の教育力をどう高めるか」を論点に、私たちは教育問題として取り組みました。どういった評価のあり方が真に教育力向上に寄与しうるのかを大いに論じ、競争と管理の人事評価ではない、参加と共同の学校づくりを進めましょう。まずは学習を広め、深め、機敏かつ大々的な闘いを組める力を貯えます。

私たちは知っています。

数のもつ大切さを。誇りとする埼高教の運動の成果も、正しい方針と仲間の団結だけで得られたものではないことを。

埼高教の運動に見合った組織とするために、もっともっと大勢の仲間をふやす努力を一層強めます。

そして私たちは誓います。

今大会で得た確信を胸に、明日からは職場に戻り、誠実かつしたたかに奮闘していくことを。

右、決議します。

二〇〇五年五月二十二日

埼玉県高等学校教職員組合 第64回定期大会